



日本海藻協会ニュース

2009年9月15日

・協会事務局から

1. 総会の開催

2009年度総会を10月9日(金)午後1時 - 1時45分に学士会館(東京・神田)で開催します。会員はご出席ください。出席できない場合には、委任状を協会事務局宛に必ず提出してください。

2. 秋季藻類シンポジウム

2009年秋季藻類シンポジウム「伝統的なアジアの藻類文化」を10月9日(金)午後2時 - 5時に学士会館(東京・神田)で開催します。講演は「メコン川流域の藻食文化 - 板海苔状カイペーン - 」(講師:京大・鯉坂哲朗氏)と「日本人の海藻利用 - 神代への旅 - 」(講師:富山大・濱田仁氏)です。参加費無料(ただし、講演集は1部1,000円)。シンポジウム終了後に懇親会が開催されます(会費:1人7,000円)。参加申込み(シンポジウム、懇親会とも)は協会事務局(E-mail: jsa@japan-seaweed-association.com)へ。

3. 「海藻資源」の原稿募集

会誌「海藻資源」No.21(12月発行予定)の原稿を募集しています。投稿期限は10月10日です。総説、報告、資料、書評などの原稿を、体裁等は最新号を参考にしてワード形式で作成し(左右2段組にしなくて結構です) e-mailの添付ファイルとしてお送りください。

・海藻関連ニュース

1. 国際藻類研究シンポジウム

インドのBanaras Hindu UniversityのCentre for Advanced Study in Botany主催の国際藻類研究シンポジウム(International Symposium on Phycological Research, ISPR-2010)が2010年2月25 - 27日にインドのVaranasiで開催されます。世界の大学、研究所、企業などから先導的研究者

の参加が期待されており、シアノバクテリア（藍藻）を含む藻類研究の全般にわたるシンポジウムです。藻類の多様性・種分化・進化、共生、ストレス下の藻類、藻類分子生物学・ゲノミクス・プロテオミクス・メタボロミクス、藻類バイオテクノロジー、藻類と医薬・機能性食品・毒物質・生体分子・薬物/抗生物質、藻類と生物的環境浄化、藻類と環境/生態学などのテーマが挙げられています。参加登録料は 2009 年 12 月 31 日までがUS\$200（同伴者US\$100）、それ以後はUS\$250（同伴者US\$150）、当日登録はUS\$300（同伴者US\$200）です。参加登録、要旨提出、宿泊申込みの期限はいずれも 2009 年 12 月 31 日です。詳細はwww.ispr2010.org.inをご覧ください。

2. 第 5 回ヨーロッパ藻類学会議

ヨーロッパ藻類学会連合（European Union of Phycological Societies）主催の第 5 回ヨーロッパ藻類学会議（The 5th European Phycological Congress, EPC5）が“Exploring the Phycocosmos: A European Perspective”をテーマに 2011 年 9 月 4 - 9 日にギリシャのロードス島（Rodos Palace Hotel）で開催されます。詳細はウェブサイトwww.epcv.grをご覧ください。

3. ソルト・サイエンス シンポジウム 2009

（財）ソルト・サイエンス研究財団主催のソルト・サイエンス シンポジウム 2009「塩と生物」が 2009 年 9 月 28 日（月）12:30-17:00 に早稲田大学国際会議場 1F 井深大記念ホールで開催されます。次の講演が予定されています。

- 「生物はどのようにして海から陸へ適応したか」（自治医大名誉教授 今井正）
- 「カリウムの有効性と安全性」（自治医大教授 武藤重明）
- 「海水で生育するマングローブ植物の生態と現状」（大阪府立大教授 北宅善昭）
- 「水産発酵食品と微生物」（東京家政大特任教授 藤井建夫）

参加希望者は住所・氏名（フリガナ）・所属・連絡先電話番号等を明記して下記宛にハガキ、FAX、または E メールで申し込んでください。締切日 9 月 18 日（先着順 450 名まで）。参加費 無料。

申込み・問合せ先：〒106-0032 東京都港区六本木 7 - 15 - 14 塩業ビル

（財）ソルト・サイエンス研究財団

ソルト・サイエンス シンポジウム 2009 係

FAX 03-3497-5712 TEL 03-3497-5711

Email saltscience@mve.biglobe.ne.jp

4. 第 7 回アジア太平洋藻類バイオテクノロジー会議

アジア太平洋応用藻類学会（Asia-Pacific Society for Applied Phycology,

APSAP)主催の第7回アジア太平洋藻類バイオテクノロジー会議(The 7th Asia-Pacific Conference on Algal Biotechnology, 7th APCAB)が2009年12月1-4日にインドのニューデリーで開催されます。藻類バイオテクノロジー関連の研究者のみならず技術者、事業主、商社、流通関係者なども多数参加するこの国際会議は、これまでマレーシア、シンガポール、香港、タイ、中国、フィリピンなどで3年ごとに開催されてきました。今回はインド藻類学会の世話で、Algal Biotechnology in the Asia-Pacific Region: New Challenges and Opportunities for the 21st Centuryの標題のもとで開催されます。

発表要旨の受付締切りは2009年10月15日です。参加費は9月30日以前と10月1日以後(カッコ内)で異なり、次の通りです。

APSAP 非会員 US\$ 300 (350); APSAP 会員 US\$ 250 (300);

学 生 US\$ 150 (200); 同 伴 者 US\$ 150 (200);

企業関係者 US\$ 700 (1,000)

詳細はウェブサイトwww.algalbusiness.comでセカンド・サーキュラーをご覧ください。あるいはarugay@mx4.ttcn.ne.jpにご連絡下さればセカンド・サーキュラーと参加登録様式をお送りします。

5. 海の森づくり第3回こんぶサミット(日本海藻協会後援)

NPO海の森づくり推進協会主催の海の森づくり第3回こんぶサミット「豊かな海との共生をめざして:海の森づくり こんぶサミットin 壱岐・(青島)・函館・東京・青森・宇和島」(2009年4月~2010年3月)の詳細は、同協会横浜事務局(Fax: 045-922-3448, e-mail: shujiro.fujino@mbe.nifty.com)に問い合わせるか、ホームページ<http://www.kaichurinn.com>をご覧ください。

東京での開催は次の通りです。

9月26日(土) 東京海洋大学品川キャンパス

シンポジウム 「海との共生をめざした環境と食育と里村づくり」
(講演とパネル討論)

9月27日(日) 東京海洋大学品川キャンパス

シンポジウム 「海との共生をめざした東京湾の環境修復と海の森づくり」
(講演とパネル討論)

6. 第20回国際海藻シンポジウム(XX ISS)

国際海藻協会(International Seaweed Association, ISA)主催の第20回国際海藻シンポジウム(The XX International Seaweed Symposium, XX-ISS)が2010年2月21-26日にメキシコのエンセナダ(Ensenada, Baja

California) で開催されます。会場は大学 (UABC) 近接の海に面した Hotel Coral & Marina (ダウンタウンまでタクシーで約 10 分) です。登録期限と参加費は、早期登録(正参加者 US\$435、学生 US\$275、同伴者 US\$250)が 2009 年 10 月 30 日まで、それ以後 2010 年 1 月 22 日までは正参加者 US\$530、学生 US\$375、同伴者 US\$300、1 月 22 日以後は正参加者 US\$600、学生 US\$450、同伴者 US\$350 です。参加費は登録期限までに送金してください(銀行送金のみ可)。参加費には、歓迎レセプション、Mid-Symposium Tour、バンケット、コーヒブレイクなどの経費が含まれています。Proceedings は別途 US\$75 が必要となります。Mid-Symposium Tours として (1) Gray Whale Watching, (2) The Blowhole, (3) The Wine Route, (4) Seaweed Collection and Abalone Farm Visit などが予定されています。ホテルは、ISS 参加者のための特別料金(1泊 US\$55~173)が設定されていますが、参加者各自がホテルに直接申込み必要があります。

研究発表のアブストラクト送付の期限は 2009 年 9 月 30 日です。

詳細は <http://www.xxseaweedsymposium.org> で Second Circular をご覧ください。

．カレンダー

2009.9.26-27. 海の森づくりシンポジウム(東京 東京海洋大学 品川キャンパス)

2009.9.28. ソルト・サイエンス シンポジウム 2009「塩と生物」(東京 新宿 早稲田大 国際会議場)

2009.10.9. 2009 年度日本海藻協会総会(東京 神田 学士会館)

2009.10.9. 2009 年秋季藻類シンポジウム「伝統的なアジアの藻類文化」(東京 神田 学士会館)

2009.12.1-4. 第 7 回アジア太平洋藻類バイオテクノロジー会議(インド、ニューデリー)

2010.2.21-26. 第 20 回国際海藻シンポジウム(メキシコ、エンセナダ)

2010.2.25-27. 国際藻類研究シンポジウム(インド、ヴァラーナシ)

2011.9.4-9. 第 5 回ヨーロッパ藻類学会議(ギリシャ、ロードス島)

．会員会社の新製品等の紹介

1. 新刊図書案内

山田吉彦(著)海の政治経済学. 成山堂書店(2009). A5判・208頁・定価 1,520円(税込).

・海藻 Q & A

Q20 - わかめ(若布)の製品にはどのようなものがありますか？

A - 褐藻ワカメ (*Undaria pinnatifida*) から作られる「わかめ(若布)製品」には主に次のようなものがあります。

- (1) 生わかめ： 収穫した天然または養殖ワカメ（原藻）の生（なま）のままのもの。
- (2) 素干しわかめ： 原藻をそのまま乾燥したもの。
- (3) 素干しわかめ・水戻し： 素干しわかめを水戻ししたもの。
- (4) 板わかめ： 原藻をすのこやすだれの上で平面状に整えて乾燥したもの。
- (5) 灰干しわかめ・水戻し： 原藻に草木灰をまぶして乾燥してから水戻ししたもの。
- (6) 湯通し塩蔵わかめ： 原藻を湯通ししてから冷水で冷やし、塩蔵したもの。
- (7) 湯通し塩蔵わかめ・水戻し： 湯通し塩蔵わかめを水戻ししたもの。
- (8) カットわかめ： 湯通し塩蔵わかめを食塩水で洗い、適当な大きさに刻み、乾燥機で乾燥したもの。

これまでのQ & A

- Q1 - 「海藻」と「海草」は同じですか。(No.2 に掲載)
- Q2 - ノリの「色落ち」って何ですか。(No.2 に掲載)
- Q3 - 海藻が多様な色彩を呈するのはなぜか？(No.3 に掲載)
- Q4 - コンブやワカメは湯通しするとなぜ緑色になるのか？ 焼き海苔はなぜ緑色か (No.3 に掲載)
- Q5 - 海苔が湿気ると赤紫色になるのはなぜか？(No.3 に掲載)
- Q6 - テングサという種名の海藻はないのですか？(No.4 に掲載)
- Q7 - 「うみぶどう」は海藻の名前ですか？(No.5 に掲載)
- Q8 - 「キラー海藻」って何？(No.6 に掲載)
- Q9 - 日本の海苔は輸出されていますか？(No.6 に掲載)
- Q10 - 「髪菜(はっさい)」は海藻ですか？(No.7 に掲載)
- Q11 - 中国で栽培(養殖)されているノリは日本のノリと同じですか？(No.8 に掲載)
- Q12 - 「岩のり」と「青のり」は違うものですか？(No.9 に掲載)
- Q13 - 「心太」と書いて「トコロテン」と読むのはなぜですか？(No.10 に掲載)
- Q14 - 「鰯浦こんぶ」はコンブですか？(No.11 に掲載)
- Q15 - 日本産海苔の輸出状況はどのようになっていますか？(No.12 に掲載)
- Q16 - 「磯焼け」って何？(No.13 に掲載)

Q17 - 「寒天」と「ところてん(心太)」はどう違うのですか？(No.14に掲載)

Q18 - 「はんぱ」って何？(No.15に掲載)

Q19 - 「みずこんぶ」(水こんぶ)とは？(No.17に掲載)

この協会ニュースは、主として会員の皆様からの情報・資料に基づいて、月1回(毎月15日付で)発行されます。情報・資料を下記宛にご提供下さい。

〒101-0031 東京都千代田区東神田 2-1-11 第一坂本ビル 7F

マリン・サイエンス株式会社 内

日 本 海 藻 協 会 事 務 局

編集者：有賀祐勝 (arugay@mx4.ttcn.ne.jp)